握手 (5)

井上 ひさし

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

場面	内容
場面１	**ルロイ修道士との再会** 桜の花が散って葉桜にはまだ間がある頃、上野公園にある西洋料理店で「わたし」はルロイ修道士と再会した。ルロイ修道士は、さよならを言うために皆に会って回っていた。
場面２	**ルロイ修道士との対話** ルロイ修道士が差し出した大きな手を見て、「わたし」は「天使の十戒」を思い出し、顔をしかめた。 **回想** 光ヶ丘天使園には「べからず集」があり、その中に「ルロイ先生とうっかり握手をすべからず」というのがあった。 **回想** 天使園に収容された「わたし」を、園長室のルロイ修道士は万力よりも強い**握手**で迎え、腕を勢いよく上下させた。 だが、（現在の）ルロイ修道士の**握手**は実に穏やかだった。 **回想** ルロイ修道士は子供たちの食料を作ることに精を出していた。手はいつも汚れており、てのひらは固く、擦り合わせるたびにギチギチと鳴った。 **回想** ルロイ修道士は日本人の監督官に左の人さし指を潰された、といううわさが流れていた。 日本人がひどいことをしたと謝る「わたし」に、ルロイ修道士は右の人さし指をぴんと立て、注意した。「わたし」は、右の親指をぴんと立てて答えた。 ルロイ修道士にぶたれた思い出を話す「わたし」の脳裏に、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけているルロイ修道士の姿が浮かんだ。 **回想** 「わたし」たちは高校二年のクリスマスに無断で天使園を抜け出し、東京へ行った。ルロイ修道士は帰って来た「わたし」たちを平手打ちし、一月間口をきいてくれなかった。 体調をたずねた「わたし」に、ルロイ修道士は遺言のような言葉をかけた。「わたし」はルロイ修道士に、日本で暮らしていて楽しかったことをたずねた。 （最も楽しいとき）天使園で育った子供が世の中に出て一人前の働きをしているのを見るとき。（上川君の話） **回想** ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子に、「わたし」たちは知恵を絞って姓名をつけた。 （最も悲しいとき）天使園で育った子が、自分の子を天使園に預けるためにやって来るのを見るとき。 ルロイ修道士は時計を見上げ、右の人さし指に中指をからめて掲げた。別れのとき、「わたし」がルロイ修道士の手をしっかり握って**握手**をし、腕を上下に激しく振ると、ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。
場面３	葉桜が終わる頃にルロイ修道士はなくなり、まもなく一周忌である。葬式で「わたし」たちに会って回っていた頃のルロイ修道士の病状を聞いた「わたし」は、知らぬ間に両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。 （語り手の「現在」＝ルロイ修道士がなくなって一年後）

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の中から、最も過去の出来事を選びなさい。

ア 「わたし」は、ルロイ修道士に西洋料理店で再会した。
イ 「わたし」は、ルロイ修道士に平手打ちをされた。
ウ 「わたし」は、ルロイ修道士から遺言のような言葉を聞いた。
エ 「わたし」は、ルロイ修道士の葬式に参列した。

〔　　〕

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 「わたし」が天使園に収容されたとき、ルロイ修道士の握手は力強いものだった。
イ 「わたし」と再会したとき、ルロイ修道士は「わたし」に万力より強い握手をした。
ウ 「わたし」と別れるとき、ルロイ修道士は「わたし」の手をとりしっかりと握った。

〔　　〕

(3) 次の各文の（　　）に入る言葉をそれぞれ選びなさい。

① 「わたし」が、日本人がひどいことをしたと謝ったとき、ルロイ修道士は（　　）、「こら。」「よく聞きなさい。」というしぐさをした。
② ルロイ修道士の注意を受けた「わたし」は、（　　）、「わかりました。」という合図をした。
③ 「わたし」が無断で外出をしたとき、ルロイ修道士は（　　）、「おまえは悪い子だ。」という動きをした。
④ 別れのとき、ルロイ修道士は（　　）、「幸運を祈(いの)る」「しっかりおやり」と指言葉で伝えた。

ア 右の親指をぴんと立て
イ 右の人さし指をぴんと立て
ウ 右の人さし指に中指をからめて掲げ
エ 両手の人さし指をせわしく交差させて打ちつけ

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕 ④〔　　〕